

# 茅野市運動公園のニホンリス

## ニホンリス



茅野市運動公園の整備以前から生息しているニホンリス。茅野市運動公園ができたのは昭和51年(1976年)。公園の整備が進んでもリスの餌となる木々が残されたことで、その後も、約40年の間生息し続けてきました。人とリスがこれからも共存していくためにできることを考えます。

### 茅野市運動公園のリス

運動公園でリスに出会ったことがありますか？公園を散歩していると目の前を駆け抜けていく姿や木を見上げると軽快に走っていく姿が。面積約34ヘクタールの広い運動公園ですが、出会ったことのある方も多いのではないのでしょうか。

茅野市運動公園が整備される以前から生息しているニホンリス。運動公園の中に溶け込んでいるリスたちですが、餌を与えられ、飼いならされているわけではない野生のニホンリスが観察できる公園は全国的に見ても他にはないと言います。

「茅野市ニホンリスの会の橋田さん(P45)によると、運動公園のリスの生息数は、平成15年には35頭だったそうです。その後、樹木の伐採などが要因となり平成21年の調査では25頭に減少していたそうですが、それ以降は20頭〜22頭が確認できているそうです。運動公園の環境がこれから先も維持されれば、これまでの40年間と同様にリスが住み続ける公園は持続していけるのでしょうか。

### ニホンリスの生態

ニホンリス(ホンドリス)は日本の固有種であるリス。全長16〜22cm、体重250〜310gで、目の周りに白い縁取りがあります。夏毛は灰褐色で四肢の付け根や脇に橙色の部分があり耳毛は無くなります。冬毛は橙色の部分は消え、淡い灰褐色に変わり耳毛が長くなり腹部は夏も冬も白いのが特徴です。

生息地は本州と四国とされていますが、西日本ではほとんど目撃例はなく、地域的な絶滅の恐れがある地域個体群とされています。日本に生息するリスは、ニホンリスのほかエゾリス、シマエゾリス、タイワンリスなどがありますが、特定外来種に指定されているタイワンリスと競合し、タイワンリスが生息している地域にはニホンリスは生息していないとされています。

寿命は4〜5年で、一度に2〜6頭の子どもを産みます。

食糧は、主にオニグルミやドングリなどの種子を食べます。また植物の芽や花、キノコ、さらに昆虫なども食べます。食糧を地中に埋めるなどして蓄える「貯食」を行うことも特徴です。

## 野生のニホンリスが観察できる数少ない公園

### 全国的にも稀な公園



ニホンリスの主食「オニグルミ」

全国的にみて、野生のニホンリスを観察できる公園はここ茅野市だけだと思われれます。毎年県外からのプロ・アマカメラマンが撮影に訪れています。ニホンリスを観察でき撮影できる場所は他にないと言います。餌を与えられて飼育ならされたニホンリスに、本来の野生の姿を見ることはできません。また人里離れた場所に住む、人を警戒するニホンリスは観察することが困難です。野生のニホンリスの姿を観察できる茅野市運動公園は、非常に珍しい、すごい公園だと言えます。愛らしいニホンリスが私たちに与えてくれるもの。子どもたちが生物に触れる機会。リスのいる公園を散歩することを日課にしている人。写真を撮ってその姿に癒される人。茅野市民とニホンリスとの40年の関係はこれからも続いていきます。



運動公園内の柵を走っていくニホンリス